



緑爽会 4月山行

浅間山 版画 奥野溪石

### 奥武蔵 仙元山から和紙の里

- [日時] 4月15日(日) 日帰り
- [集合] 東武東上線池袋駅8時10分発小川町行き後部車両内  
または小川町駅改札口9時30分
- [交通費] 約1600円(池袋起算)
- [コース] 小川町駅—八高線踏切—仙元山 298.9m—見晴らしの丘  
公園—八宮神社—大聖寺—埼玉伝統工芸会館—小川町駅
- [歩く時間] 2時間30分 [地図] 2万5千 武蔵小川
- [係り] 横山 隆
- [申込み] 横山 03-3704-1687 FAX 共 但し夜間に限る  
雨天時は中止とします。

春の花の咲くよい季節になりました。花をめでつつ、のんびり歩きましょう。昼食は忠七めしなど美味しい店で食べたいものですね。



緑爽会報 NO. 106  
'12年 3月27日  
発行  
(社)日本山岳会緑爽会  
TEL 03-3261-4433  
事務局  
松本恒廣 樋口公臣  
夏原寿一  
近藤 緑 川口章子  
横山 隆 渡部温子

### 三月山行「浅間尾根を歩く」終わる

三月一八日(日)、昨年から持ち越されていた「浅間尾根」が実施された。天気予報が悪いなか、それでも集合場所に集まったのは現緑爽会の精鋭たち。尾根の途中から降り出した雨で、悪路と化した下りを最後まで歩き通した。山行の記録と写真は次号に掲載する。

「参加者」横山隆・鳥橋祥子・島田稔・瀬戸英隆・田井具世・川口章子／戸村千秋  
係 松本恒廣  
計八名

### 五月は緑爽会総会

#### 六月は自然保護全国集会支援

#### ◆年次総会のご案内

日時 五月一七日(木) 一三〜一六時  
場所 日本山岳会会議室  
詳しくは次号に掲載

#### ◆自然保護全国集会支援事業

緑爽会は自然保護OBによって創立された同好会。恒例の支援事業は、自然保護委員会と共催で東日本大震災被災地「慰霊と支援の旅」を準備中。(会報「山」及び本紙8頁参照)

### 【講演】

#### 増えた山の名、消えた山の名

意外な土地に存在していた山岳密集地域  
(私のアルプス談義の最終章)

宮下啓三

### 序言

緑爽会は、山の自然を守ろうとする情熱をもつ日本山岳会員たちの集まりです。二〇〇四年二月を一回目として緑爽会で私はアルプスをテーマにした話をしてきました。今年で早や八年目。

一九六三年春に日本山岳会に入会させていた。以来、やがて五〇年。私は多くの個性豊かで人間味あふれる人たちとお付き合いを楽しんできました。自分の人生の重要な一部分が日本山岳会での人間同士のまじわりであったと感じています。

御恩返しのため私には、本業の専門分野での仕事のかたわら、スイス・アルプスの文化と民俗の歴史について語ったり書いたりしてきました。

しかし、私が日本山岳会への御恩返しの大仕事としてしたことが、日本山岳会の人たちに知ってもらえていません。その仕事とは、横有恒(まきありつね)の「アイガー東山の初登攀を語る文章をドイツ語に翻訳すること」でした。一九二二年(大正一〇年)九月に小柄な日本人が難攻不落と思われていたアイガー東山稜を地元のスイス人のガイドたちの協力を得て登り切りしました。アルプス登山史に残る大きなできごとでしたが、その登攀の詳細をつづった横有恒の日本語の文章の内容はスイスで知られずにはいきました。私は、



宮下さん、終始立ったままで講演

スイスの登山家で登山史の研究者でもある人から頼まれて、横有恒の「アイガー東山稜征服の苦闘を語った文章をドイツ語に翻訳しました。日本山岳会の図書室にある『Eiger, Айガー』という美しい書物の中に私の訳が収められています。私のおこなった翻訳は、日本人のアルプスでの活躍を証言するものとして歓迎されました。その翻訳を一つの章とする書物は一九九八年に出版されてから今なお版を重ねているとのこと。翻訳の苦闘が報いられました。日本山岳会の会員たちに気付いてもらえないので、自分からこの事実を報告させていたのだ次第です。

横有恒の輝かしい業績が新聞で大きく伝えられたのをきっかけとして、日本の登山の歴史に大きな変化が生じました。それまで夏の時期の尾根歩きが主流であった登山が、冒険好きな大学生たちによる岩登りと冬のスキー

登山の隆盛の時代を迎え、それがヒマラヤへの遠征に至る道筋をつけました。

しかし、登山の発展と近代化をほめそやすばかりではいけない、と私は感じはじめました。その発展の犠牲になったものがある。それについて考えたい、と思いはじめました。

その矢先の昨年五月、私は自覚症状のないまま重い病気におかされていることを医者から告げられました。治しようのない癌が消化器官の内部に生じているというのです。応急手当で生き延びさせてもらっているうちに、二〇一二年二月の緑爽会での話の依頼が来ました。緑爽会の切り盛り役の一人である松本恒廣君は、私の小学校の同級生であり、松本君の父君（松本信廣）は大学山岳部で大島亮吉の親友であり、横有恒とも山行をともにした人でした。その松本君からの頼みを、病気を理由にことわる気になれませんでした。

私の病気のことを知らずにいた松本君から二〇一二年二月に話をしてほしいと電話で言われた時、病気を告白した上で、なおかつ話をさせてほしい、と私は言いました。万一、日本山岳会に身体をはこべない場合には、原稿をどなたかに読み上げてもらってほしい、とも言いました。自分自身の口からだろうと、他人の口からだろうと、私は遺言の一部として、今までの緑爽会での話に締めくくりをつけたかったからです。

最終回となる今日、話の舞台をスイス・アルプスから日本に移して、みなさんを驚かせたいと思います。

今日、私は、前半と後半の二つに分けて話します。お手もとに、前半のための資料としてのプリント三枚をお配りしました。話の途中で休憩の時間を作って、後半の資料をお配りします。みなさんを驚かせる話の種を先に

知られてほしくないからです。

前半は主として百名山を手掛かりにして語ります。百名山についての、みなさんそれぞれの記憶を呼び起こしながらお聞きください。

### 第一部(前半) 増えた山の名

自慢話をする山岳地帯の川たち(分水嶺と流域面積)

大阪府を大阪都にするなどというケチなこ

とを言わずに、日本全土から都道府県の境目をなくしてしましましょう。鉄道も道路も都市も消して、日本を山と川だけの自然な状態に戻してしまつたらどうなるか？

一枚目のプリントの『中部地方の分水嶺と

## 中部地方の分水嶺と河川流域



河川流域」と「関東地方の分水嶺と河川流域」をご覧ください。日本でいちばん高い地域をカバーする二枚の地図に分水嶺と主な川の流域だけを描きました。そこに私は深田久弥の『日本百名山』の章の番号である数字を書き込みました。第七十二章の富士山が第七十一章の丹沢山と第七十三章の天城山には含まれているといった具合です。何番が何という山か、お仲間同士で当てっこをしてお遊びください。

この二枚の地図に合計七十一の名山の位置が示されています。

中部地方の上半分を大きく占めている信濃川が言います。「私は日本でいちばん長い川だ。甲武信岳の北側の水源から日本海まで、三六七キロメートル。北アルプスの槍・穂高から、浅間山、谷川岳に至るまで、日本百名山の二十三が私の流域にある」

すると、天竜川が言います。「私は流域面積で信濃川の半分、長さは三分の二ほどしかない。でも甲斐駒ヶ岳から聖岳までの南アルプスのそうそうたる山々と、木曾駒ヶ岳から恵那山に続く中央アルプス、それに霧ヶ峰や八ヶ岳もある。百名山の十二が私の領分にある。私の方が信濃川より名山の密度が高い」

『日本百名山』中の悪沢岳は、その頂上の場所にこだわれば大井川の流域にあるのですが、深田久弥は天竜川の分水嶺に属する荒川岳を悪沢岳と束ねているので、天竜川の勢力範囲に加えました。

「その程度で威張るなよ」というのが大井川です。「自分の長さは信濃川の半分以下だし、流域面積は天竜川の四分の一ほどだけれど、南アルプスの六つの百名山を持っている」流域面積を百名山の数で割ってみれば、信濃川は(11900÷23)五一一七平方キロメートル



ル、天竜川は(9000÷12)四六三平方キロメートルとなるのに対して、大井川は(12000÷11)一一三三平方キロメートル。たしかに大井川の言う通り、信濃川と天竜川を黙らせるほどの百名山含有率です。面積について見れ

ば、大井川が信濃川の二倍半の密度で名山を保持しています。「ちゃんちゃらおかしい」と北の方で文句をつけるのが黒部川です。「白馬岳から鹿島槍ヶ岳から立山と剣岳まで九つが自分の流域

にある。長さも流域面積も大井川の半分しかないくらいの短くて狭い川だけれど、魅力的な山の密度においては自分が一番だ」なるほど、流域面積について計算すれば、(683÷9)七六平方キロメートルの面積に

関東地方の分水嶺と河川流域

百名山一つとは、りっぱな成績です。

四つの川の言い争いを聞いていた富士川は、日本最高の山である富士山と日本第二の高さをもつ北岳をもちますが、百名山の密度を自慢する話に加わらないことにしました。「自分の流域には九つしかないから」と思っ

て黙っていました。  
はるか北、北海道の利尻島も論争に口をはさもうとしましたが、思いとどまりました。百名山のある島として一八二平方キロメートルの流域面積に利尻富士をそびえ立たせて、大井川よりも百名山の含有率が高いのですが、黒部川には勝てません。

流域面積の広さにおいて日本第一位は利根川であって、西は浅間山から東は筑波山まで、百名山を数多く持ちますが、面積当たりの含有率は低いものとなります。第二位の石狩川、第四位の北上川、第五位の十勝川も同様です。

「こっちの勝ちだ」という小さな声があります。日本海に注ぎ込む二つの小さな川です。火打山（ひうちやま）の頂上から北に延びる尾根の東側の谷の能生川（のうがわ）と西側の谷を流れる早川です。これら小さな川の主張にも耳を傾ける価値がありそうなのですが、残念ながら黒部川の百名山の含有率には一歩およばないようです。でも、川一つに百名山一つというユニークさは評価してあげたいと思います。

### 地上からみる山々の名前

日本の中央部に位置する中部地方と関東地方の分水嶺と川筋および百名山の数についての数字を「一枚目のプリントの左側、『参考』というタイトルをつけたところに並べておきましたのでご覧ください。注目しておきたい

### 参考： 河川流域・河川長と日本百名山

利根川（流域面積 16842 km<sup>2</sup> [日本第1位]・幹川流路延長322km [日本第2位]）

$$16842 \text{ (流域面積)} \div 13 \text{ (流域内の百名山数)} = 1296 \text{ km}^2$$

16842 ÷ 14 = 1203 km<sup>2</sup> (燧岳は山頂も山麓も福島県に属しますが、麓の尾瀬沼から東京電力の導水管が利根川水系に水を供給していることを理由にして分水嶺とする説があります)

信濃川（流域面積 11900 km<sup>2</sup> [第3位]・延長 367 km [第1位]）

$$11900 \div 23 = 517 \text{ km}^2$$

木曾川（流域面積 9100 km<sup>2</sup> [第5位]・延長 229 km [第7位]）

$$9100 \div 3 = 3033 \text{ km}^2$$

阿賀野川（流域面積 7710 km<sup>2</sup> [第8位]・延長 210 km [第10位]）

$$7710 \div 9 = 857 \text{ km}^2$$

天竜川（流域面積 5090 km<sup>2</sup> [第12位]・延長 213 km [第9位]）

$$5090 \div 12 = 424 \text{ km}^2 : 5090 \div 11 = 463 \text{ km}^2 \text{ (悪沢岳を荒川岳と切り離して扱う場合)}$$

富士川（流域面積 3990 km<sup>2</sup> [第15位]・延長 128 km [第33位]）

$$3990 \div 11 = 363 \text{ km}^2$$

荒川（流域面積 2940 km<sup>2</sup> [第19位]・延長 173 km [第15位]）

$$2940 \div 2 = 1470 \text{ km}^2$$

九頭竜川（流域面積 2930 km<sup>2</sup> [第20位]・延長 116 km [第40位以下]）

$$2930 \div 1 = 2933 \text{ km}^2$$

神通川（流域面積 2720 km<sup>2</sup> [第22位]・延長 120 km [第40位前後]）

$$2720 \div 6 = 453 \text{ km}^2$$

大井川（流域面積 1280 km<sup>2</sup> [第47位]・延長 168 km [第30位前後]）

$$1280 \div 6 = 213 \text{ km}^2$$

黒部川（流域面積 ?・延長 86 km）：百名山 9

相模川〔山梨県内では桂川〕（流域面積 1804 km<sup>2</sup>・延長 115 km）：百名山 2

姫川（流域面積 ?・延長 58 km）：百名山 3

### ヨーロッパ・アルプスの場合

ライン河（ユングフラウ等）流域面積 252000 km<sup>2</sup>・河川長 1320 km

ポー河（モンテローザ等）流域面積 70000 km<sup>2</sup>・河川長 2020 km

ローヌ河（モン・ブラン、マッターホルン等）流域面積 99000 km<sup>2</sup>・河川長 812 km

ドナウ河（ピツ・ベルニナ等）流域面積 81万 7000 km<sup>2</sup>・河川長 2850 km

スイス国内（事実上スイスはこの4つの河の上流域を国土としています）：ライン河流域（スイス総面積の67.7%）・ローヌ河（18%）・ポー河（9.6%）・アディージェ川（0.3%。スイス東南部の谷）

のは福島県西部を流れる阿賀野川の健闘ぶりです。その阿賀野川の流域にある山の一つが尾瀬の燧ケ岳（ひうちがたけ）です。頂上も斜面も完全に福島県にあります。分水嶺ではありません。ところが北側の尾瀬沼と中央と西側に流れ出る野尻川が福島県と群馬県の境目となっています。どうしてこんなことになったのか？ 尾瀬沼の水を地下に通した管で東京電力が利根川に引き入れているという理由で燧ケ岳を分水嶺だという説があります。

自然状態を重視する私は、この説を無視して、燧ケ岳を阿賀野川の流域にあるものとして、分水嶺の議論から引き離すべきだと主張します。

この『参考』の下の方に、ヨーロッパ・アルプスの大きさ、河川の長さなどについての数字をかかげておきました。ついでにアルプスの分水嶺と主要な河川の流域の地図を添えました。たった四つの河川がアルプスを占領しています。日本の川たちは、その規模にお

いて、とうていかないません。でも、ヨーロッパのアルプスと日本の山々との間に共通する現象が見られます。古い時代の地図に描かれたときの姿が似ていたのです。

三枚目のプリントの右上、『十六世紀のスイス地図の一部』をご覧ください。スイスの東北部を描いた地図で、右側にチューリヒ、その左にチューリヒ湖、上がスイス中央の東寄りにあるフィーアヴァルトシュテッテ湖。左

に寄ったところにヴェーゼン湖があります。もとの地図に色はありませんが、わかりやすいように湖に青い色をつけました。

◆ヴェーゼン湖とは、かつて辻村伊助がサン・モリッツでセガントーニ美術館を訪ねた後、

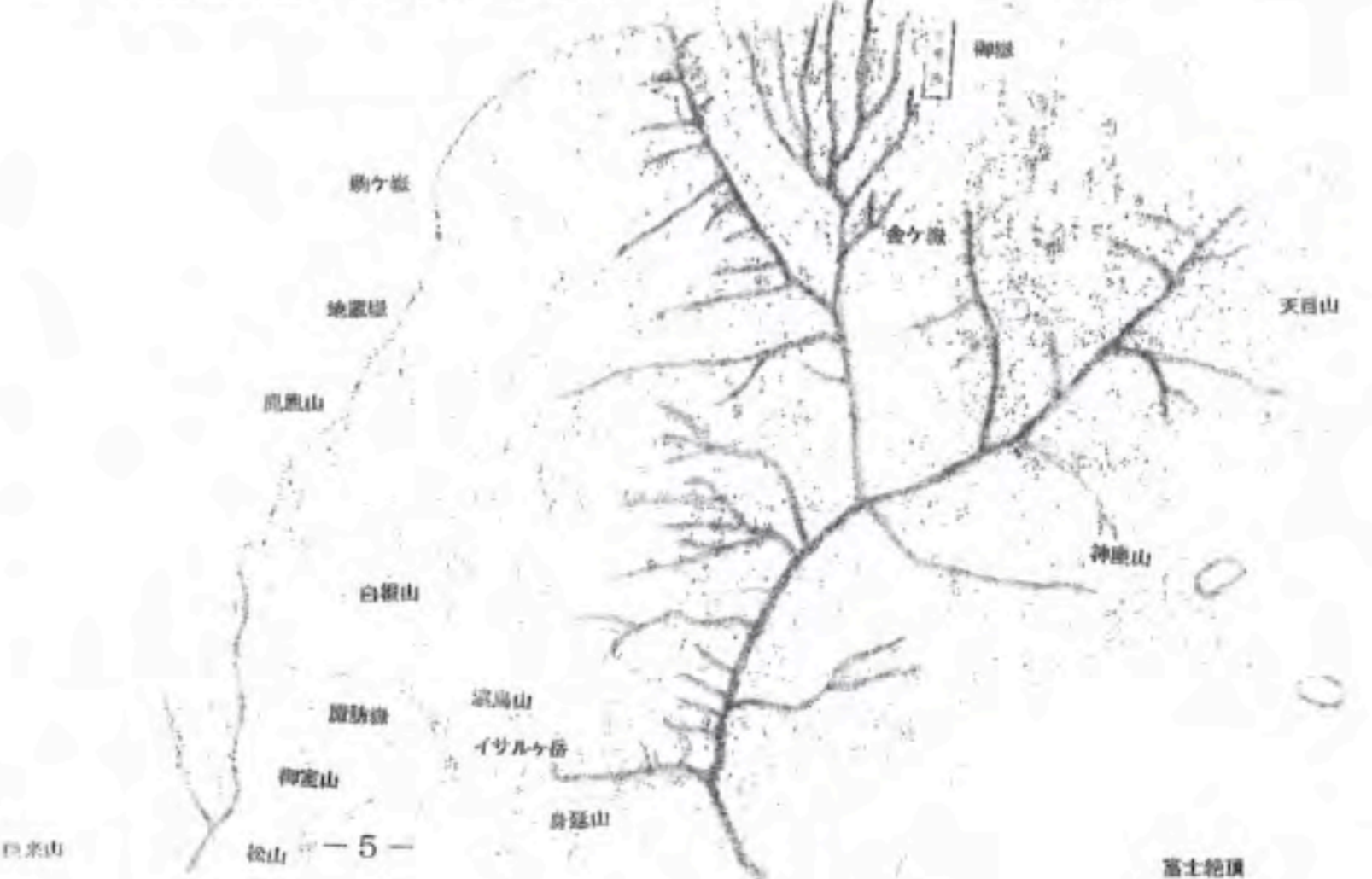
チューリヒに向う途中、気まぐれに列車を降りて滞在した場所です。その時、辻村伊助は西の方に向って散歩してグラールスという町の北側に立つ山々を写真撮影しました。『スويس日記』の中に載っている写真の中に、『スイス民謡



『おおブレネリ』の舞台となった地点がぼんやり写っているのですが、辻村伊助自身はまったく気づいていませんでした。写真に写った山々の中に、『ブレネリ』という名の娘の伝説、すなわち、人のいうことを聞かない我がまま娘に罰が当たって、頂上近くの万年雪に閉じ込められたまま、麓の村に戻らなかつた、という伝説の舞台が隠れていたのです。この伝説が『おおブレネリ』というスイス民謡のもとになりました。そして、グラールス山群の右側に見える湖（クレンタル湖）が、『おおブレネリ』、あなたのおうちはどこ？ わたしのおうちはスイツツランドよ、きれいな湖水のほとりなのよ』という歌詞にある「きれいな湖水」であったのです。

この古いスイス地図の一部分からみなさんによく見ていただきましたのは、第一に山の描き方です。日本の子どもたちが描く山の形をつらねたように山脈が描かれています。ところどころに「mons」という文字が四角形の中に見えます。「山々」という意味のラテン語です。一つ一つの山に名がつけられた形跡がありません。この地図があらわしていた最重要の情報は川筋です。山脈のあいだに道がついているように見えますが、湖水から出ているところを見れば、道でなくて川筋であることがわかります。川は、古い時代の人々が交通する際にいちばん大事なものでした。川沿いに道がつけられていました。川と道の両方を並べて描く必要がありませんでした。

『富士見十三州輿地全圖之内 相模・伊豆・甲斐・駿河・遠江五國圖』  
 (1843年〔天保14年〕江戸で出版された地図)(部分)



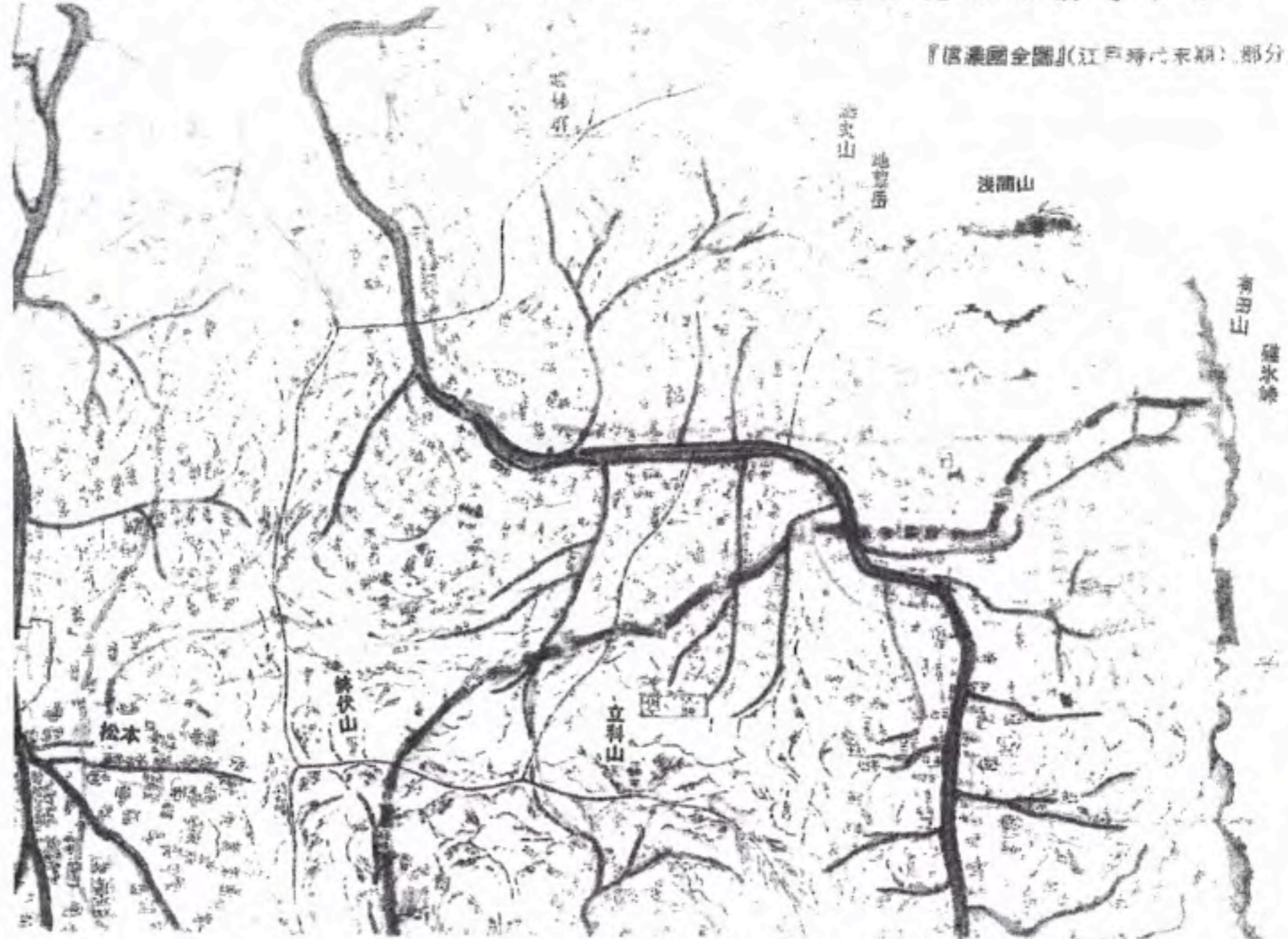
川のあるところに人の通る道があり、川沿いに人の住む場所がある、という単純な原則は、そのスイス地図の下、『富士見十三州輿地全圖内 相模・伊豆・甲斐・駿河・遠江五國圖』に共通します。富士川に沿って甲州の奥に進む道筋の部分を見ていただいています。江戸時代末のこの地図も、川筋を描くことによって人の通る道を省略しています。川筋に沿ってたくさん地名、つまり人の住む集落の名が書かれています。川筋に沿っていない道だけが特に筋をつけられているのですが、

それはごくわずかです。

山の名前がいくつか書きこまれています。ランドマーク、つまり方向を確認するための目印として利用されていた山の名です。八ヶ岳の左手、川の尽きるところまで行けば、その先は信州です。左手に鳳凰山、地藏嶽、駒ヶ岳の名が並びます。川筋とそれらの山々の間の山の描き方はきわめて機械的です。山の個性を描き分けようという意志がまったく見られません。つまり、スイス・アルプス地方の古い地図とまったく同じ原理で日本人は地図を作っていたのです。

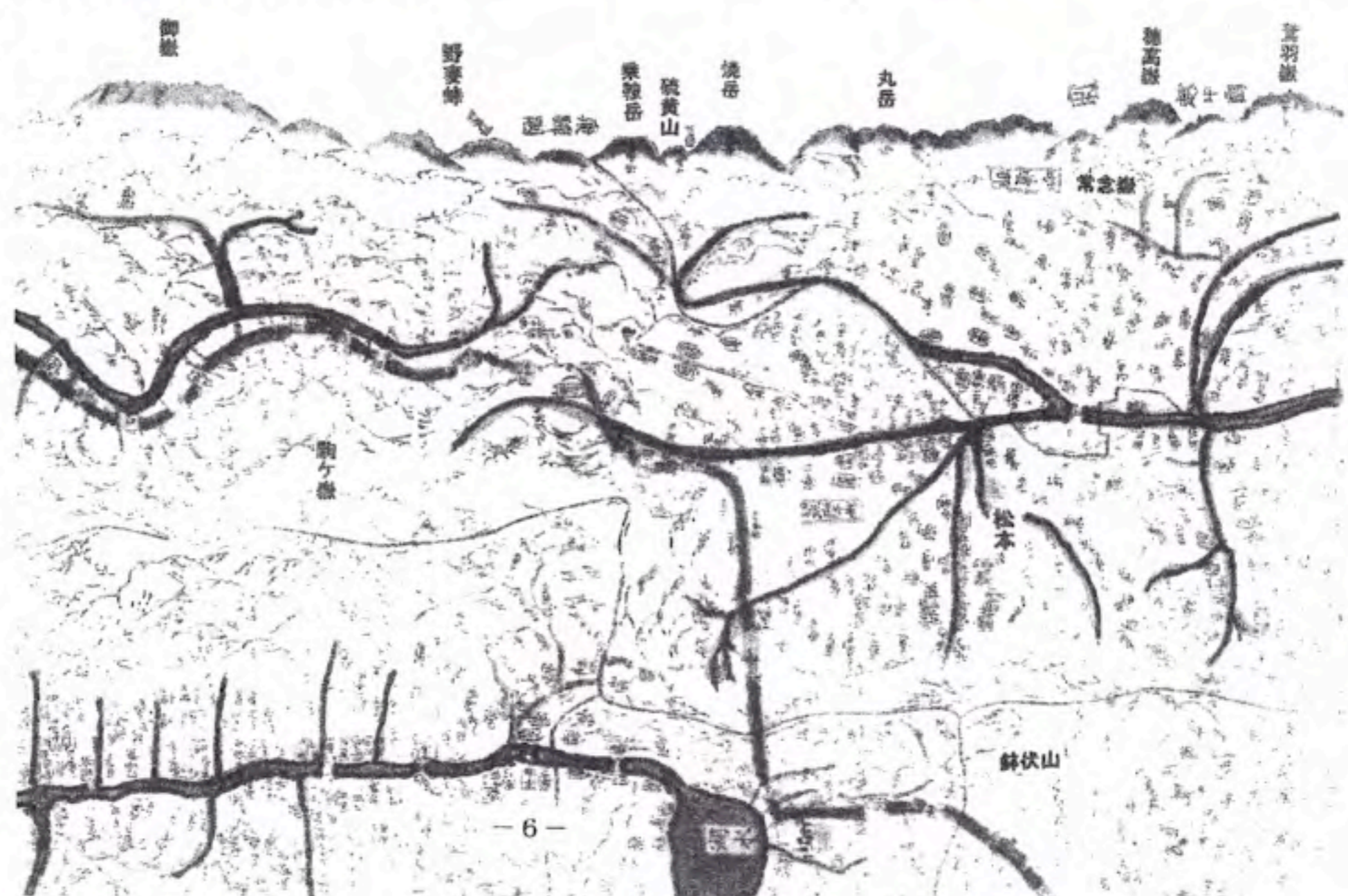
◆この地図に名前のある山々のうち、「イサルガ岳」は今の「策ヶ岳（さるがたけ）」（二六二九メートル）で、早川が西から富士川に合流するあたりで早川の谷の奥に策を伏せた形に見えます。白根三山とは別個に「農鳥岳」が名を知られていたようです。一方、「神座山（かみざやま）」（二七〇メートル）は、大室山の東、川口湖駅の南西二キロメートルの位置にあります。が、「神座洞」という神域をもつことによつて名が知られていたのでしょうか。「天目山（てんもくざん）」は、中央本線の初鹿野駅の東、一三〇メートルの山で、武田氏滅亡の地に建てられた祥雲寺の山号でもある因縁で名が高かったのでしょうか。「金ヶ嶽」は「金ヶ岳（かねがたけ）」（二七四〇メートル）、茅ヶ岳（かやがたけ）の東北側に寄り添うように立つ山です。茅ヶ岳と重なるように見えて、ランドマークになっていたと見えます。「御嶽（みだけ）」は金峰山の別名でもあるのですが、ここでは昇仙峡の北の山の呼び名「御嶽」のこと。左下の「諏訪嶽」などについて私は確認をするに至っていません。江戸時代末期に作られた『信濃國全圖』のうちから、二つの部分を切り抜いてお目にかけます。江戸時代としては山の形をしつかり

『信濃國全圖』（江戸時代末期）部分



描いているところに特徴のある地図です。その地図の、碓氷峠から諏訪湖の近くまでと、諏訪湖から峠を越えて木曾川沿いの谷に出る道筋の部分を見ていただきます。江戸から京都までの、東海道と並ぶ重要なルートであった中山道（なかせんどう）の核心部です。碓

『信濃國全圖』（江戸時代末期）部分



氷峠の南に、名前こそ書かれていませんが、荒船山とわかる形の山が見えます。苦勞して碓氷峠を上り詰めた旅人にとって浅間山は特に大きく見えたのでしよう。この地図でも、川筋が丹念に書きこまれています。浅間山が背後に低く小さくなるにつれて大き

さを増すのが立科山つまり蓼科山です。三〇〇〇メートルに近い八ヶ岳をさしおいて、二〇〇〇メートルにも及ばない斜伏山（はちぶせやま 一九二九メートル）が大きく描かれています。最大の難所である和田峠を越える旅人にとって、大きな器（うつわ）を伏せた

ような、鉢伏山のおだやかな姿が心を慰めたからでしょうか？

◆江戸時代の日本で、一八一〇年代の文政年間に出版されて街道筋を歩く旅人たちのガイドブックとなった本の一つが『新版諸国道中細見記』ですが、その中仙道（なかせんどう）、つまり江戸から京都まで山岳地帯を通る中山道のコースを説明する記述の中で、和田峠について「和田 此処は日本一高き所なり」と書かれていました。必要に迫られて難儀な旅をしなければならぬ人々たちにとって、信濃川の流域と天竜川の流域を分かつ和田峠は、越えなければならぬいきつい登り下りに堪えなくてはならない難所でした。海拔一五二〇メートルほどの峠ですが、趣味や物見遊山で登るわけでなく、必要に迫られて越える人々にとって、まさしく日本で一番高い所と感ぜられたのでしよう。

この地図では中山道および上田を経て千曲川沿いに長野の善光寺に至る道に沿って宿場のある土地が丁寧に示されています。千曲川から離れて諏訪湖に至る中山道が川沿いの道でなかったことにも理由があったのでしようが、長い道を行く旅人の目に見える最大の山が浅間山であり蓼科山であったのでしよう。諏訪湖を経て木曾川沿いに歩くようになった旅人の目に何より大きく見えたのは乗鞍岳と御嶽でした。どちらも大きい塊に見える火山であること特徴とします。切れ目なく続く山脈は目印として不適當でした。

◆この地図は、当時としては珍しく信濃と飛騨のあいだの山々、すなわち北アルプスの姿を詳しく描いています。焼岳と穂高嶽のあいだの距離がいかに長すぎます。焼岳の左側の「硫黄山」とは何か？ 焼岳の別称である「硫黄山」のことであって、一つの山が二つに描かれてしまったのでしようか？ 焼岳の右手の「丸岳」

は、松本平の西南の方向に見える「鉢盛山（はちもりやま）」によく似た形に見えます。一方、「野麦峠」の文字が面白い傾き方をしているのが目を引きます。この峠は、「女工哀史」で知られるようになるより前から、信濃の住人たちにとって重要な峠でした。特に冬、富山湾で獲れる脂ののった鱒（ぶり）が神通川をさかのぼり、野麦峠を越えて、信州側にはこぼれました。裕福な信州人にとって海の産物である「寒鱈（かんばんり）」は正月の祝いの膳における最大の贅沢でした。鷺羽岳がほんとうに見えていたのかどうか？ 私には鹿島槍ヶ岳に似た形をしているように見えます。

旅人にとっての「頂上」は山のでつぺんではなくて峠にありました。「峠の頂上」という言い方をした例は、正岡子規が箱根に行った時の文章の他に、柳田国男や大島亮吉の紀行文に見られます。

飛騨山脈つまり北アルプス、木曾山脈つまり中央アルプスの山々は、谷間を川沿いに歩く人々たちにとっては、古い時代のスイスの谷間を行く人々にとってのアルプス山脈と同じで、道をふさぐ壁のようにはしか見えていなかったはずで

「ここまで私の言いたかったこと」  
ここまでが私の話の前半部分です。この部分で私が言いたかったことをまとめてみます。

下から見る目線で認識できる山、つまり谷間の川沿いに旅する人々の目に見える山とは、「山」という漢字に似た姿をしていて、麓から頂上までを一つのまとまった絵として描ける山であり、それにふさわしいのが火山でした。

先ほど私は、関東と中部の地図に百名山のうちの七十一がある、と言いました。その七

十一の山々が百名山の全体を象徴しているかとたずねられたら、「そうではない」と私は答ええます。北海道から東京にかけての、私が作った地図にのっていない十八の山々のうちの十四が火山です。伊吹山より西の十一の山のうちの五つが火山です。つまり、私の作った地図にない二十九の名山のうちの十九が火山です。圧倒的に火山が多いのです。

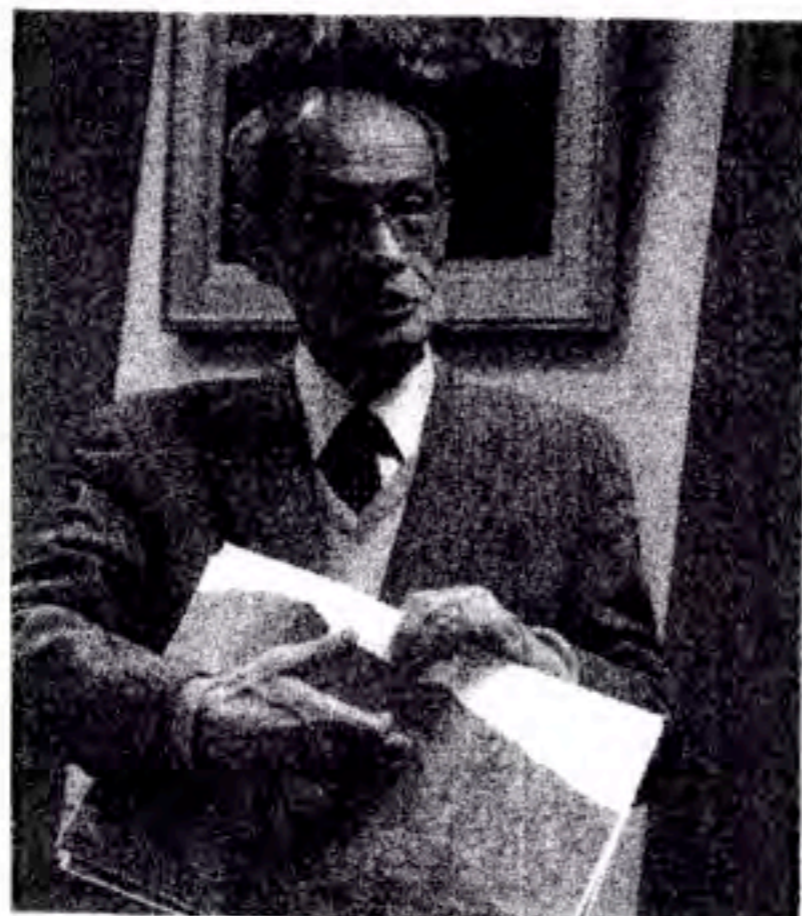
一方、関東と中部の概念図に見られる七十の名山のうちの火山とは、国土地理院の作った資料などを見ると、古い時代に火山であったことを証明する岩石が見つかったという理由だけで火山の仲間入りをさせられている槍ヶ岳と穂高岳を加えても、二十二。火山でない山々が絶対多数を占めています。火山でない山と峰の多くは、明治時代に入って三角測量によって高さを知られ、その高さによって価値を認められて名前をつけられました。

日本の山々より百年以上も前に同じことがヨーロッパ・アルプスで起こっていました。精密な地形図が作られる過程で、山や峰の一つ一つに名前がつけられました。山と峰の数が一挙に増えて、高さが数字であらわされるようになったので、山の高さを競い、峰の数を競うゲームが始まり、アルピニズムとも呼ばれる登山の流行する時代が来しました。その流れの中で生まれたのが日本山岳会でした。

つまり、谷間の川沿いの土地から見えない山や峰が、高さや名前を得て、活動意欲のある人々たちを刺激して登山に誘ったことから近代の登山の歴史がぎざまされてきました。

人間が谷間や平地からの「下からの目線」では識別できるはずのない山々と峰々が、「横からの目線」によって計測され、「上からの目線」で描かれるようになった地形図とともに誕生したのです。

実例の一つとして、私の父の郷里である天竜川沿いの農村から見える鬼面山（きめんざん）をあげます。高森町から飯田市にかけての土地から東の方にその山が見えます。夕日を受けて赤く染まると、三つの峰が赤い鬼の二つの耳と頭頂部、その下の起伏が怒った鬼のむき出す牙のように見えます。「鬼の面（つら）」という意味で天竜川の右岸に住む人たちがそれを「鬼面山」と名付けました。現代の地形図は右耳の先端を最高地点として標高一八八九メートルという数字を載せています。鬼面山はただの点に化してしまいました。名前の由来を地図は教えてくれようとしません。ガイドブックは山頂に至るコースについて語るだけです。



鬼面山が赤く染まるが逆さの目線

◆下から見える形にもとづいて付けられた山の名は、鉢伏山（はちぶせやま）、飯盛山（めしもりやま）、いもりやま、高尾山（たかおさん）、たかおやま、尾は尾根を意味していて、尾根が続く山の呼び名、鍋割山（なべわりやま。鍋が割れて逆さになった形）、丸山（まるやま。山頂が丸い形）と丸森（まるもり。東北地方では「森」が山を意味することが多く、山頂部の

丸い山)、家形山(いえがたやま)と四阿山(あずまやさん)(ともに家の形に見えることによる)等々、文字で絵を描くにひとしい山名です。

詳細で正確な地形図の発展によって、多くの新しい山と峰およびそれらの名が生まれ、それに数字が書きこまれました。それによって、多くの先輩たちおよび私たち自身の登山意欲が刺激されました。その一方で、地形図の発達が多くの山々を消し去ったのではないかとというのが私の抱く疑問です。

◆それに加えて、地形図が一つの「山」や「岳」を多数の峰に分解した結果、奇妙な現象が生まれました。古くから日本人は「八」を「たぐさん」という意味で使ってきました。「八ヶ岳」は「たぐさんの峰をもつ山」という程度の意味でした。現代人は地図に八つの峰を書きこもうとしました。その結果、八ヶ岳の北半分は八つ、それに加えて南半分は八つの、名前と標高の数字をもつ峰が地形図に書きこまれました。結ば一本の山脈である八ヶ岳の、網笠山から赤岳を経て蓼科山までの間に「横岳(よこだけ)」という名の山が二つも出現するという奇妙な結果を生じました(赤岳の北にある横岳が二八三〇メートル、蓼科山の南にある横岳が二四七三メートル)。

測量の対象となる峰の数が増えるにつれて、地図を作る人たちは横着になるばかりであったようです。その結果、峰に差別が生じました。穂高岳の手前があるから前穂高岳、北にあるから北穂高岳、そして南穂高岳という名がつじつまの合いそうなのに、西穂高岳という名を生みました。そもそも「東・西・南・北・中・小・前・後・奥」といった文字を持たされた峰たちは、独立した峰としての資格を認められえな

さまって独立を許されません。奥秩父の最高峰である「北奥千丈岳(きたおくせんじょうだけ 二六〇〇メートル)」は「奥千丈岳(おくせんじょうだけ 二四〇九メートル)」の附録にすぎないかのような名前に甘んじています。槍ヶ岳の南にある「中岳」と「南岳」も、いかにも付属品にすぎないかのような名前です。日本第二位と第四位の高さである「北岳」と「間ノ岳」も、名前のつけ方に安易さが感じられてなりません。吾妻山(あずまさん)には「西吾妻山」と「中吾妻山」と「東吾妻山」が並んでいます

が、一番低い中吾妻山がいかにも居心地の悪そうな様子をしているように見えてなりません。これと似ているのが立山と剣岳の西にある大日岳(だいにちだけ)です。大日岳(二四九〇メートル)・中大日岳(二五〇〇メートル)・奥大日岳(二六〇六メートル)というぐあいに三つの峰が並びますが、「中」は中心にそそり立つ峰であることを意味しません。槍ヶ岳の南にある中岳は、いかにも便宜的で人情味のない名前です。木曾駒ヶ岳と宝剣岳には含まれた中岳の場合もこれと似ています。

### 二つばれ話

文字通りに「上からの目線」によって地図が作られるようになったことの犠牲者の一人が深田久弥でした。

映画『剣岳 点の記』は、幾多の困難を乗り越えて剣岳に三角測量の石を埋め、やぐらを立てて測量した人たちの業績を讃える、見応えのある作品でした。それは、「横からの視線」で山々の頂に張りめぐらされた三角点を結んで線を引く作業でもありました。こうして日本の山岳の高さが測られた結果が地形図に記された高度を示す数字でした。

深田久弥は百の名山を選ぶ際に、「千五百米

(メートル)以上」という条件を設定した上で、筑波山(八七六メートル)と開聞岳(九二四メートル)の二つに特別に参加資格を認めました。

ところが、高さの条件に合わない山がもう一つ生まれてしまいました。『日本百名山』の「阿寒岳」の章を見ると、「二五〇三メートル」として記されています。ところが、宇宙に飛び出した衛星による高度測定という最新技術によって阿寒岳の最高地点である雌阿寒岳の標高が一四九九メートルに修正されてしまいました。

それでも、『日本百名山』の文庫本の発売元である新潮社と朝日新聞社は、素知らぬふりをして、「二五〇三メートル」として記しています。著者の気持を尊重してなのか、出版部員の怠慢によるのか、私は知りません。

前半の話はここまでにします。(以下次号)

### 二月一六日 講演会出席者

田辺寿・羽田栄治・梨羽時春・松本恒廣・近藤緑・里見清子・渡部温子・横山隆・高辻謙輔・中澤喜久郎・大島洋子・島田稔・福原サチ子・富澤克禮・山川陽一・高橋保夫・瀬戸英隆・川口章子・中尾千予光・小泉義彦・渡辺恵美子・近藤雅幸/郡成好・小坂和明・坂本忠雄・布川欣一・宮下秋子「講師」宮下啓三 計二八名

### ◆自然保護全国集会プレスタディ 東日本大震災被災地「慰霊と支援の旅」

緑爽会・自然保護委員会共催

三月一日の天津波から一年、復興への取り組みはまだ始まったばかり。被災地の人々にとつては、災害が世間から忘れられてしまうことが一番つらいと言います。尾瀬問題を話し合う全国集会の前に、せめて現地を訪れて「慰霊と支援」の思いを伝えたいと思います。

【期日】六月二十九日(金)〜七月一日(日)

【日程】第一日 七時五〇分 新宿西口発

東北自動車道経由仙台〜石巻視察後福島へ。

猪苗代観光ホテルで「支援の夕べ」開催

第二日 七時三〇分宿舎発 片品村戸倉へ。

一三時から尾瀬高原ホテルで開催される

自然保護全国集会「尾瀬を考える」に合流。

基調講演・分科会・全体会に参加。

第三日 フィールドスタディイン 尾瀬

に参加 一五時現地出発 帰京

【費用】プレスタディ二万円(バス&宿泊代)

及び全国集会(一泊二日) 一万三千元

計二万三千元

申込先 川口章子 FAX 047-463-8721

または 近藤緑 FAX 03-3395-0326

編集後記 新発足した四国支部の支部長に緑爽会々員の尾野益大さんが就任。お祝いと同時に四三歳の若さに今後を期待したい。(近藤)



講演終了後、宮下さんを囲んで

写真撮影 小泉義彦